

口腔内スキャナー時代の到来

～少数歯のみならずフルアーチ、そしてガイドや3Dプリンター義歯などさまざまな臨床応用～

CAD/CAMをはじめ、デジタルデンティストリーの進歩には目を見張るものがあります。しかし、いまだに口腔内の印象採得から模型製作の行程は、ほとんどがアナログに頼っているのが現状です。そのような中、近年、オーラルスキャナー（以下IOS）が進化を遂げて臨床のルーティンワークになろうとしております。すでに演者はインプラント補綴および自費補綴の印象採得はほぼすべてIOSを用いております。そこで、IOSの実際と活用法を紹介させて頂きたいと思います。少数歯のみならずフルアーチへの応用、患者説明への活用、CTとの重ね合わせによるガイド製作、そして、プロビジョナルのトランスファーなどのさまざまなバーチャル設計、加えて3Dプリンター義歯やコピーデンチャーなどさまざまな臨床応用が可能となっております。いよいよ口腔内スキャナー時代の到来といえるでしょう。先生方のお役に立てれば幸いです。

田中譲治

1986年 日本大学松戸歯学部卒業

1989年 千葉県柏市にて田中歯科医院開業

1995年 MACS研究会設立 現在主宰を務める

2001年 日本大学松戸歯学部 解剖学Ⅱ講座にて学位取得

2008年 日本大学松戸歯学部 臨床教授 現在に至る

2014年 一般社団法人 日本インプラント臨床研究会 会長 施設長 現在に至る

【現在】公益社団法人 日本口腔インプラント学会 理事・専門医・指導医／ITIフェロー／ITISC 関東2支部長 千葉北 Director／アジア口腔インプラント学会 理事／日本歯科審美学会 理事／日本アンチエイジング歯科学会 理事／日本磁気歯科学会 理事／北原学院歯科衛生専門学校 非常勤講師／柏歯科医師会 柏スタディー協力委員